

二〇二六年度 一般選抜 学力検査(国語)

現代の国語、言語文化 (古文・漢文を除く)

解答番号

1

}

28

一 次の文章を読んで後の問い（問1～問9）に答えなさい。

^(注1) プナンは個人的な所有欲が起こらないよう、幼少期の頃から教えているわけですが、翻って私たち日本社会ではどうでしょうか。プナン社会と日本社会を対比させながらここでは考えてみましょう。

私たち日本人は、子どもたちの所有欲を認めます。もちろん個々の家庭によって程度の差はあるでしょうが、子どもが「チョコレートが欲しい」と言ったら、チョコレートを買い与えるでしょう。「オモチャが欲しい」と言ったら、オモチャを買い与えるでしょう。

そのやり方は、子どもがおのずから持つ所有欲を、親やその他の人が無理にねじ曲げるのではないという意味で、自然なまま生育しているのだと言えるのではないのでしょうか。

逆に、プナンは一人だけに買い与えたり、分け与えたりすることはありません。所有欲を起こすこと自体を認めないのです。

しばしば私たちは森の中で暮らすプナンのような狩猟採集民を、より自然な生き方をしていると考えがちです。ところが、所有や贈与という観点から見ると、むしろ自然な生き方を採用しているのは、プナンではなく、私たちのほうなのです。

プナンでは、幼子たちの所有欲の発芽をあらかじめ殺^そいでしまおうわけですが、日本では個人の所有欲は放つたらしにされます。所有欲を認められた子どもたちは、その芽生えとともに、「あれが欲しい」「これが欲しい」と親をはじめ周囲の大人たちにおねだりすることでしょう。

チョコレートが欲しい、オモチャが欲しい、スマホが欲しい、望遠鏡が欲しい、ノートパソコンが欲しい、バイクが欲しい……と、欲望はどんどん **A** します。

日本で個人的に所有されるのは、たんに物質的なものだけではありません。「知識」や「能力」もまた、大人たちから授けられ、または授けられるように仕向けられ、個人によって所有されます。個人的に所有されるような知識と能力によって、人は自

立の活路を見出すのです。

幼児教育の知識を身につけて保育士になり、法律の知識を得て弁護士に、飛行機ソウジューウの知識と能力を持ってパイロットになる、という具合に。プナンのやり方との対比で言えば、所有欲を否定せず認める考え方は、「知識」や「能力」などもまた個人によって所有されるといって考え方へと拡張されて、私たちの社会を作り出しているのだと言えるでしょう。

これに対して、プナンの場合、「知識」や「能力」は個人に属するものではありません。それらは、集団の中でシェアされ、生かされています。

いずれにせよ、「知識」や「能力」は、個人の **B** として後天的に教育によって授けられる日本社会に対し、プナン社会では、狩猟や漁撈ぎょうらうに関する「知識」や「能力」は個人ではなく、親子や集団の中でシェアされ、用いられます。

他方、日本社会ではものだけでなく、「知識」や「能力」など、非物質的なものまで含めてすべて個人によって所有されます。そのため、それ相応の「知識」と「能力」を持った個人だけが選り抜かれていくのです。逆に言えば、人々をふるいにかけて、不適切な人物を振り落とすことにより、有能な知識集団や技能集団が組織されます。プナン社会とは対照的に、私たちの社会は、競合と選抜の原理でできているのです。

⁽²⁾ そのような体系のおかげで、競争の原理が働いて、私たちの社会では、優秀な人材が生み出され、専門性のもとに知識と能力が磨き上げられてきたのだと言えるでしょう。個人に対しては、「知識」を増やし「能力」を高めるといって、それ自体「清く尊い」努力を続けることが求められます。その結果、優秀とされる人物はその「知識」と「能力」に見合った報酬を手に入れ、財産を築くことができます。こうして、個人は物質的・精神的な幸福を手に入れるのです。

その一方で、「知識」と「能力」を身につけることの準備に多大な時間とエネルギーを注いだにもかかわらず、それらが欠けていると見なされる人たちもいます。彼らは、彼らが目指していたその道のエキスパートによって、無残にもふるい落とされるでしょう。そして、場合によっては、心に大きな傷を抱えることになるのです。「知識」や「能力」を個人所有のものと考えること

は、結果として個人を「有能」か「無能」かで判断し、評価することにもなり得ます。カジヨウな競争によるストレスが生み出す「心」の問題は、今日、私たちの社会が直面する大きな課題です。

一方は、所有欲を認め、個人的な所有のアイデアを社会の隅々にまで行き渡らせ、幸福の追求という理想の実現を、個人の内側に掻き立てるような私たちの社会。他方は、個人の所有欲を殺ぐことによつて、ものも知識もみんなでシェアし、みんなで一緒に生き残るといふ考え方とやり方を発達させてきたプナンの社会。

個人所有と、その否認であるシェアリング。それはあまりに複雑な二項図式かもしれません。仮に、その二つの「所有」を認めたとしても、二つのうち、一概にどちらがいいとか悪いとかを言うことはできないでしょう。 **X**、個人的に所有する欲望を殺ぎ、みんなで分かち合うプナンの狩猟採集民的なやり方は、競争原理を排し、すべての人にとつて優しく組み立てられているように思えます。

共同所有を社会全体に行き渡らせるためには、マレーグマの神話のようなわかりやすい物語が必要だったのかもしれませんが。マレーグマが自らたくさん持っていた尻尾を残らず分け与えてしまい、最後に自分の尻尾までなくなつてしまつたという神話は、プナンの人々にとつて非常に重要なメッセージを孕んでいたので。というのは、自らのことを省みることなく、寛大に人々に分け与えることこそが、そこでは最も尊敬すべき、美しい振舞いだからです。

プナン社会では、与えられたものをすぐさま他人に分け与えることを最も頻繁に実践する人物が、最も尊敬されます。そういう人物は、自分のところには何も残らないまでに、周囲の人々にもものを分け与えます。彼は最も質素で、多くの場合、誰よりもみずばらしいなりをしています。彼自身は、ほとんど何も持っていないからです。

そして何も持たないことに反比例して、彼は周囲の人々から尊敬を得るのです。そのような人物は、人々から「ラケ・ジャヤウ」、英語で言うなら「ビッグマン」、つまり「大きい男」と呼ばれ、 **C**。

そのようなリーダーのあり方は、高級スーツを身にまといたり、高価な時計を腕に着けたり、ピカピカの高級車を乗りまわし

たり、平気で公金を私的に流用したりする先進国の一部のリーダーたちとなんと違っていることでしょうか。

このように、気前のよさとセットになったある種の交換は、その場で金銭と商品を交換する商取引とは異なる「贈与」交換と呼ばれます。こうした贈与の仕組みをめぐって、文化人類学でよく紹介される別の例を引いてもう少し考えてみましょう。

ニュージールランドのマオリ^(注3)は、贈り物が贈り手から移動する時には、贈り物とともに移動する「贈与の霊」があると考え、それを「ハウ」と呼びました。ハウは贈り主のもとに帰りたいがため、別の物にのせてお返ししなければなりません。彼らにとって、贈与はただもらいつ放しただけではなく、必ずお返しをすること、Y 返礼がセットになっています。

アメリカ大陸の先住民（ネイティブ・アメリカン）たちもまた、贈り物を交換し、何かをもらったら必ずお返しをしています。白人の行政官が村を訪れた際に、ネイティブ・アメリカンは見事なパイプを贈ったことがありました。数カ月後、彼らがその白人のオフィスを訪れると、暖炉の上に自分たちがあげたパイプが飾つてあるのを見つけました。彼は、「白人はもらったもののお返しをしない。それどころか、もらったものを自分のものにして飾っている。なんという不吉な人々だ」と感じたと言います。

ネイティブ・アメリカンにとって、贈り物は白人がするように、飾っておくべきものではなかったのです。贈り物を自分のものにしてはならず、贈り物は動いていかなければならなかったのです。贈り物と一緒に「贈与の霊」が、他の人に手渡されるのです。「贈与の霊」は、別のかたちをした贈り物に添えてお返ししたり、別の人たちに手渡したりすることで、常に動かさなければなりません。⁽⁴⁾「贈与の霊」が動いて流れてゆく時、世界は物質的に豊かになり、人々の心は生き生きとしてくるのです。

一方、資本主義下では、資本が一カ所に集められて、事業に投下されることによって、経済活動が行われています。逆に、お金がどこかにため込まれて、経済が停滞すると、社会そのものに活力が失われます。

お金と社会が関係している点に着目した経済学者のシルビオ・ゲゼルは、「お金は老化し、消え去らなければならない」と言っています。このような考え方から彼は資本主義の枠組みの中で「自由貨幣」というものをティシヨウ(注5)しました。自由貨幣とは、

一定額の価値を与えるスタンプを貼り、使用することができる貨幣のことで、ひとつのスタンプは一週間とか一カ月間とか有効期限が決められています。そのため、自由貨幣は一定期間のうちに使わないとただの紙切れになってしまいます。つまり、死ぬお金です。これによって、⁵⁾貨幣の流通を促進させようとするアイデアでした。ちなみに、このシルビオ・ゲゼルの経済思想から大きな影響を受けたのが、『モモ』や『はてしない物語』などのファンタジー小説で有名な児童文学作家ミヒャエル・エンデでした。

世界恐慌の時代、財政破綻に陥ったオーストリアのとある町議会では、ゲゼルの理論にしたがって自由貨幣の発想に基づく、その地域だけで通用する貨幣を発行することを決めました。結果、経済は回復し、再活性化したのです。以来、世界各地で地域貨幣を導入し、貨幣を循環させ、人と人のつながりを生み出し、社会に活気を取り戻すための取り組みが行われてきました。

資本主義が抱える課題の先に見出された地域通貨にも、ものを常に循環させようとする「贈与の霊」の精神を確認することができます。

(奥野克巳『これからの時代を生き抜くための文化人類学入門』による。出題の都合上、一部改変した箇所がある。)

(注1) プナン——東南アジアにあるボルネオ島の内陸部に住む少数民族。

(注2) マレーグマ——東南アジアの熱帯雨林に生息する世界で最も小型のクマ。

(注3) マオリ——ニュージーランドの先住民族。

問1

傍線部(ア)と(ウ)と同じ漢字を含む熟語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、
1
2
3

(配点6点)

(ア) ソウジュウ

1

- ① 会社の設備をカクジユウする。
- ② ジユウライのやり方を一新する。
- ③ 弟はユウジユウ不断な性格だ。
- ④ 国内を鉄道がジユウダンする。
- ⑤ クジユウの決断を強いられる。

(イ) カジヨウ

2

- ① 食後にジヨウザイを服用した。
- ② 今年度の予算からヨジヨウが出る。
- ③ 肥料を混ぜてドジヨウを改善する。
- ④ ジョウリユウして成分を抽出する。
- ⑤ 傷口をセンジヨウして清潔に保つ。

(ウ) テイシヨウ

3

- ① 世界の童話をシヨウヤクする。
- ② シンシヨウ必罰を徹底する。
- ③ 議論のシヨウテンを絞る。
- ④ 四月から取締役にシヨウシンする。
- ⑤ 音楽の時間にカシヨウ指導をする。

問2

空欄

A

く

C

を補うのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、

4

く

6

。

(配点9点)

A

4

- ① アップデート
- ② エスカレーター
- ③ インプリント
- ④ コンプリート
- ⑤ ローターション

B

5

- ① 暫定的な私有物
- ② 体系的な拾得物
- ③ 排他的な独占物
- ④ 生得的な所有物
- ⑤ 形式的な収獲物

C

6

- ① プナン社会で嫉妬される対象になります
- ② 結果的にたたくさんのものを所有します
- ③ 社会の中で不利な立場に置かれます
- ④ その共同体のリーダーとなります
- ⑤ 周囲の人々から孤立することになります

問3

空欄

X

解答番号は、

7

・

8

Y

を補うのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(配点4点)

X

7

- ⑤ あるいは
- ④ そして
- ③ すなわち
- ② もちろん
- ① ただ

Y

8

- ⑤ つまり
- ④ なぜなら
- ③ だから
- ② そこで
- ① むしろ

問4

傍線部(1)「自然な生き方を採用しているのは、プナンではなく、私たちのほうなのです」とあるが、筆者はなぜそう考えているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、9。(配点5点)

- ① プナンの子どもは幼い頃から欲しいものをみずから狩猟採集して手に入れるが、日本の子どもは欲しいものを周囲から買い与えられて自由に手に入れるから。
- ② 所有欲は自然に芽生えるものであるにもかかわらず、プナンではそれが教育によって阻まれるが、日本では子どもの所有欲を認めて増大させようとするから。
- ③ プナンでは幼少期から所有欲の抑え方を教えて子どもに所有欲を持たせないようにするのに対し、日本では子どもに物を与えて所有欲を起こさせようとするから。
- ④ プナンでは子どもが所有欲を起こさないように気をつけて子育てをするが、日本では子どもがおのずから所有欲を起こすまで見守りながら子育てをするから。
- ⑤ プナンでは所有欲が起こらないように教育するのに対し、日本では所有欲を自然な感情であると認め、子どもの所有欲を否定することなく育てるから。

問5

傍線部②「そのような体系のおかげで、競争の原理が働いて、私たちの社会では、優秀な人材が生み出され、専門性のもとに知識と能力が磨き上げられてきた」とあるが、どういうことか。筆者の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、10。

(配点5点)

- ① 日本社会に身を置く人々は、他人を押しつけることによって自立するため、教育によって知識や能力を個人に授ける必要がある、それが結果として有能な人材を生むことにつながったということ。
- ② 日本人は、不適切な人物として集団から振り落とされないうために知識や能力を高める教育を受け、それで得たものを個人の所有物として蓄積するため、競争に勝つ有能な人物が多いということ。
- ③ 日本のように、知識や能力などの非物質的なものも個人の所有物となる社会では必然的に競い合いになるため、個人の技能や知識を高めることで専門的な知識集団や技能集団が作られるということ。
- ④ 日本は知識や能力などの個人所有を認める社会であるため、知識や能力を所有したいと考える一部の人が努力によって知識を増やして能力を高めた結果、人材の専門性が高まったということ。
- ⑤ 日本は個人の専門的な知識や能力によって社会が維持されているので、人材を競合させてその中から選抜するというやり方を通して、無能な人間も有能な人材になるように育成してきたということ。

問6

傍線部③「マレーグマの神話のようなわかりやすい物語が必要だった」とあるが、筆者はなぜそう考えているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、11。(配点5点)

- ① 自分の命の危険を顧みずに尻尾を分け与えたマレーグマの生き方は、共同所有の社会は誰かの犠牲によってしか成立しないということを印象づけるのに効果的だったから。
- ② 尻尾を他人に分け与えたことでみずからの体の一部が欠損してしまったという悲話は、共同所有するべきは非物質的な知識や能力であるということを示唆しているから。
- ③ 自分の体の一部を分け与えるという振る舞いを称賛することによって、富を増やすためには個人の所有物を誰かと共有すべきだという考えを広めたかったから。
- ④ 狩猟採集社会では、食料も狩猟や漁撈に関する知識・能力もシェアすることが集団として生き残ることにつながるため、自ら進んで分配する精神を育まねばならないから。
- ⑤ 尻尾がなくなっても生きていけるといふ事実を示すことによって、自分に不要なものは惜しみなく他人に分け与えて簡素に生きるべきだといふ知恵を授けたかったから。

問7

傍線部(4)「『贈与の霊』が動いて流れてゆく時、世界は物質的に豊かになり、人々の心は生き生きとしてくるのです」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

12。

(配点6点)

- ① 贈り物には贈り主の思いが込められているが、それは何か別のもののにせて贈り主に返さなければならぬため、贈り物の交換が繰り返され、信頼関係が深まっていくということ。
- ② 贈り物を自分のものにしたままで返礼や他人への譲渡を怠ると不幸が訪れるが、贈与のサイクルを循環させ続けることで、関係性が継続し、繁栄がもたらされるということ。
- ③ 贈り物には返礼の義務がともなうので、何かをもらった人は贈り主に何か別のものを返すということが繰り返され、その結果経済が発展し、人々は金銭的に豊かになるということ。
- ④ 贈り物には、贈る人の思いが反映されており、もらった人は贈られたものよりもよいものを返そうとするため、それが繰り返されることで、人々の物欲が満たされるということ。
- ⑤ 贈り物には贈与を促す霊が宿っており、もらった人は誰か別の人に贈り物をした気持ちになるため、それが繰り返されることで、人々の交流が活発になるということ。

問8

傍線部⑤「これによって、貨幣の流通を促進させようとするアイデアでした」とあるが、このアイデアの説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、13。

(配点5点)

- ① 一定期間使われず、ただの紙切れになった自由貨幣に再度一定額の価値を与えるスタンプを貼り、貨幣を循環させようとした。
- ② 通常の貨幣を廃止し、一定の期間しか使用できない自由貨幣を導入して貨幣の循環をコントロールし、経済活動を抑制しようとした。
- ③ 貨幣に有効期限を設けることで期限内での利用を促し、消費活動を促進させることによって経済活動を活性化させようとした。
- ④ 貨幣を手にしてから一定の期間を過ぎると、貨幣が価値を失う仕組みを導入し、人と人とのつながりを生み出そうとした。
- ⑤ 貨幣の価値が時間の経過につれて上がったたり下がったりする仕組みを導入し、人々に急いで貨幣を使わせて経済を回復させようとした。

問9

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

14。

(配点5点)

- ① プナンでは、狩猟採集に関する知識や能力は集団でシェアされるが、狩猟採集で得たものは個人の所有物となる。
- ② 日本社会は競合と選抜の原理で動いているため、すべての個人が物質的・精神的な幸福を手に入れることができる。
- ③ 先進国の一部のリーダーたちは、ものを他人に分け与えることによって返礼品を得て高価なものを身につけている。
- ④ ネイティブ・アメリカンは、行政官が自分たちのあげたパイプを一度も使っていないという事実には嫌悪感をもった。
- ⑤ 財政の危機に瀕したオーストリアの町でその地域だけで通用する貨幣を発行した結果、経済が回復して再活性化した。

二 次の文章を読んで後の問い（問1～問9）に答えなさい。

以前、ハードルを跳んだことのない人に、ハードルを跳んでもらうということがありました。中には、なかなか跳べない人もいました。跳べない理由はいろいろあるのですが、多くの場合、ハードルに当たって転びそうで怖いということがあります。

この場合、伝えることばはシンプルで、「ハードルの上に襖ふすまをイメージしてそれをケヤブケるように跳ぶこと」です。跳べなかった方も、一度跳べると、そのあとはどんどんよくなりました。

I

スポーツをするうえで、このようなことばはいろいろあります。例えば、スクワットをする時、膝がつま先より出てはいけませんが、「膝を出さないように」と言っても、普通にしゃがんだ状態から膝を伸ばして立ち上がると、膝がつま先より前に出てしまいます。そこで、初心者の方には、「少し後ろにある椅子に座るように腰を下ろして、おじぎしながら、そこから立ち上がりましょう」という言い方をします。

一方、競技者でスクワットをやっている人には、「膝裏をたたく」という言い方をすることがあります。そうすることで、若干、斜め上方に方向性が生まれて、きれいなスクワットをすることができますが、これを、スクワットをはじめたばかりの人に言うと、かえって変な動きを生んでしまうことがあります。いったん膝が伸びておじぎのような姿勢になり、それから立ち上がることになってしまうからです。

つまり、同じことば（¹⁾ 比喻）でも、学習者のレベルによって有効である場合とない場合があります。コーチングのうまい人は、学習者のレベルによってどのようなことばが的確かを直感的に判断し、¹⁾ タクミにことばを使う人が多いです。

ことばを使うということは、究極の **A** 行為のようだと感じています。つまり、ことばというのは、視覚や聴覚や触覚など、あまたある外界の刺激のある部分をぎゅっと抜き出して表現します。特に、競技のうえでは、複雑に動く身体の適切な部分、あることばによって捉えると、一気に全体の動きが変わるといえることがあります。

例えば、バタバタ走っている人に、「バタバタ走るな」と言ってもあまり変化がなかったのに、「空き缶を潰すように地面を踏みなさい」と言った瞬間に、全体がぴたっとハマるような動きに変わったりします。具体的な空き缶を見せるより、ことばでそう表現するほうが、効果があります。そういうところが、ことばの非常に面白いところだと感じます。

選手は映像で一連の動作をすべて見ることはできませんが、映像よりことばのほうが伝わる、ということもよくあります。例えばピッチャーに、ベテラン選手が投げている映像を見せて、「こう投げなさい」と言うより、「目の前の前方1・5メートルぐらいのところはタオルが下がっているんで、それを指で弾くように投げなさい」と指導したほうが、効果があると聞きます。さらに、実際に投げたあとに、「あと2センチメートル前にタオルがあることをイメージして」などと指摘をすることで、より具体的に動きを調整することができます。

Ⅱ

では、映像の何が問題なのでしょう。それは、映像には非常に多くの情報があるのに対し、人間が意識できるのは、せいぜい1か所程度だということです。つまり、たくさんある情報の中で、本当に見なければいけないところはどこなのかわからなくなってしまうのです。熟練した人は、映像を見ながら勝手に意識をおくべきポイントを想像していますが、経験が浅い人にはそれができません。映像は情報が多すぎて正確すぎ、人間が一時に処理できる処理能力を超えてしまっているのだと思います。

また、もうひとつの問題として、動きというのは、身体の内部から力が生まれた結果として、最終的にその形になっているのですが、映像ではその最後のところしか見ることができません。

例えば、ピッチャーがボールを投げた瞬間の指を切るような動きは、ただ、映像を見ても、**B** ことは難しいです。でも、「タオルを弾くように投げる」と言うと、最後にタオルにパチンと当てようとするので、自然と指を切る動きも出ます。

このように、ことばは大事なところにスポットライトを当てることができるため、⁽²⁾ コーチングには、実は、ことばがいちばん適しているのではないかと思っています。

ただ、はじめからそう考えていたわけではありません。競技をはじめたばかりの頃、動きというのは、図工の絵や写真のよう

に、現実をそのまま映し出すということが大事であり、人はみな、そうしているものだと考えていました。つまり、目の前に理想の動きがあれば、人はそれを自然に吸収していくものだと思います。III

でも、そのうちにどうもそうではないことに気づきました。理想の動きがあるのに、人の動きはそれと同じになりません。人によって骨格が違うからということもありますが、それだけでなく、人間の認識や認知には癖があり、同じものを見たり、同じアドバイスを受けても、受け取り方が人によって異なっていると感じるようになりました。また、そうすると、^③コーチングの言語はとても複雑になると思いました。

それぞれの認識が異なるということは、同じ動きを引き出すにしても、違うことばで伝えなければならぬということです。先ほどの例で言えば相手が「投げる」ことをどの程度のレベルで理解しているか、さらには言葉を認識する際の癖などを想像しながらことばを選ばなければなりません。

受け取る人の認識を想像しながらことばを選ばないと、同じ動きを引き出せないのです。しかも、選手とコーチがどのくらいのベースを共有しているかで、ことばは変わりますし、選手のレベルや癖に合わせて、適切なことばを使っていく必要もあります。

選手がスランプに陥った時、ことばによって、^(注1)技術的なブレイクスルーを起すことがあります。まずコーチは、選手がどのような動き（出力）をしていて、どのようなC（入力）をもっているか、選手自身もつ身体イメージを想像します。そして、ことばによって選手にある枠組みを与え、選手はそれにより今までとは違う動きを行うことができるようになるわけです。

僕自身、これまで、いろいろな方からいただいたアドバイスで、技術的なブレイクスルーを経験したことがあります。そのひとつが、「足を三角に回す」ということばです。これは、22歳の頃、スランプに入っていた時、⁽⁴⁾陸上競技選手だった高野進さん^(注2)からいただいたアドバイスでした。

「三角」というのは、走っている人間を横から見た時の足の軌道です。陸上競技では、足が後ろに流れるのはよくないと言われていて、実際、トップ選手ほど、走る時に足が後ろに流れません。でも、「足を後ろに流すな」と言われても、なかなかイメー

ジシにくいものです。

そこで、足のくるぶしあたりで、三角の軌道を描くことをイメージすると、足が後ろの角に到達した時、三角形の鋭角に沿って、角度が変わることを意識できます。これにより、足が後ろに流れないような動きを引き出すことができます。アドバイスいただいた当時は、よくわからなかったのですが、言われたとおりに走ってみて、「あ、こうやると足が後ろに流れない」ということを実感することができました。

ですから、結果として得た学びは、「三角に回せた」というよりは、「足が流れないというのは、こういうことなのだ」ということだったので、そこに至るパスとして、このことばがあったということです。

高野さんは、ことばのセンスがすばらしくて、基本的には「正三角形で」と言いながら、僕が走ったあとに「もう少し二等辺三角形で」などの微調整もしていました。それはおそらく、僕の頭の中にある三角形のイメージと、実際の動きとの誤差を、そうしたことばによって埋めていたのだと思います。僕にとっては、この「正三角形で」が、スランプを抜けるブレイクスルーのことばとなりました。

もうひとつ、ブレイクスルーを経験した例を挙げると、ハンマー投げの室伏広治(むろふしこうじ)さんに言われた「膝の位置ってどこだと思う？」ということばです。まるで **D** のようですが、室伏さんがおっしゃりたかったのは、狙いたい動きを引き起こすためには、実際の膝の位置ではないところに膝があると考えたほうがうまくいくことがある、ということでした。

つまり、膝の前に動かしたい時、現実の膝を動かそうとするより、ももの中央を動かそうとしたほうが、より膝が前に動くということ。動かしたい場所（やりたいこと）と、動かそうとする場所（意識する場所）が同じほうがいいとは限りません。

V 同じようなことばで、陸上の世界では「みぞおちから足が生えているように」という表現があります。これも、そのことばを聞いただけでは、まったく意味がわからないのですが、実際に、みぞおちから足が生えているようなイメージで走ると、自然に、

コツバン^(ウ)のあたりまで動かすことができますようになります。

ただこの時、「腰をこのように動かしたら、足が勝手に動く」ということを、自分で体験して理解することが大切です。ブレイクスルーは、体験によつて「このことか!」とわかった瞬間に起きます。競技の場合、少なくとも身体的なことに関することは、どれだけすばらしいことばを聞いても、それを、体験をとおして理解することがなければ、何も変わりません。コーチングの言葉で、架空の身体をイメージし、現実の身体の動きを改善することを行います。そして身体的に「わかる」という感覚を得て、それを再現するよう努力する。身体的に「わかったもの」が、結果として、さらに言語化されていくとも言えるのです。

(為末大 今井むつみ『ことば、身体、学び』「できるようになる」とはどういうことか』による。)

(注1) ブレイクスルー——できないことを克服し、解決策を見出すこと。

(注2) 高野進——日本の短距離選手、指導者。

(注3) 室伏広治——日本のハンマー投げ選手、指導者。

問1

傍線部(ア)と(ウ)と同じ漢字を含む熟語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、
15
17

(配点6点)

(ア) ケヤブる
15

- ① 公衆にシユウタイをさらす。
- ② 一つの考えにコシユウする。
- ③ 相手の提案をイッシユウする。
- ④ 敵のシユウゲキに備える。
- ⑤ 会長にシユウニンする。

(イ) タクみ
16

- ① 不穏なチョウコウが見える。
- ② 最後まで圧力にテイコウする。
- ③ 神仏へのシンコウを深める。
- ④ コウミョウな手口を見破る。
- ⑤ 被災地のフッコウを支援する。

(ウ) コツバン
17

- ① 駅前に大きなカンバンを出す。
- ② 物語もいよいよシユウバンに入る。
- ③ ピアノのバンソウに合わせて歌う。
- ④ ヤバンなふるまいに閉口する。
- ⑤ 彼は大器バンセイ型の人物だ。

問2

次の文は本文の一部であるが、文中の I ～ V のどこに入れるのが最も適当か。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、18。

(配点2点)

身体のどこに注目するか、その位置を置き換えることで、目的としている動きを引き出すことができます。

- ① I
② II
③ III
④ IV
⑤ V

問3

空欄 A ～ D を補うのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、19 ～ 22。

(配点12点)

- A
19
-
- ⑤ 保存
④ 編集
③ 修復
② 支配
① 分析

D

22

- ⑤ 討論会
- ④ お伽話ときばなし
- ③ 禅問答
- ② 水掛け論
- ① 落語

C

21

- ⑤ 意識
- ④ 技術
- ③ 言葉
- ② 能力
- ① 理想

B

20

- ⑤ 共有する
- ④ 練習をする
- ③ 想像する
- ② 発見する
- ① 真似まねをする

問4

傍線部(1)「同じことば(比喩)でも、学習者のレベルによって有効でない場合があります」とあるが、どういふことか。筆者の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、23。(配点5点)

- ① スポーツの世界では、初心者コーチングする際に比喩表現を使った指導を行うことは逆効果であり、正確かつ詳細なことばの指導が求められるということ。
- ② スポーツの指導をする際、対象が経験者であれば比喩的な表現を用いた指導は不要であり、動き方を具体的にことばで説明するだけで十分であるということ。
- ③ 比喩を用いた指導はわかりやすい反面、学習者のレベルによって理解に差が生じやすいため、基本的にはたとえを使った表現はしないほうがよいということ。
- ④ 競技の習得度が異なれば、体全体の動きを変えさせるための適切なことばも異なるため、どのような比喩を用いればよいかをその都度判断する必要があるということ。
- ⑤ スポーツについてアドバイスをする際、比喩による説明は有効であるが、学習者の言語能力によって解釈が変わるため、慎重に用いなければならないということ。

問5

傍線部②「コーチングには、実は、ことばがいちばん適している」とあるが、筆者はなぜそう考えているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

24。

(配点5点)

- ① 映像は身体の動きの一部分しか映し出すことができず、映像によるコーチングの効果は限定的であるが、ことばは動作の全体を詳細に言い表すことができるから。
- ② 映像では身体の外に現れた動きしか捉えられないため、そこに至った正確なプロセスを理解するには、コーチが発することばによって補われる必要があるから。
- ③ 映像は人間の身体の一連の動作について、その最後の部分を伝えることしかできないが、ことばによる実況は人間の内面についても詳細に伝えることができるから。
- ④ 映像にはとてもたくさんの情報が含まれているが、その映像の内容をことばによって詳細に説明されると、人間は情報を正確に処理することができるから。
- ⑤ 映像を見ても、経験の浅い人は意識を置くべきポイントを理解できないが、ことばを使えば一連の動きの中の肝要な瞬間に注意を向けさせることができるから。

問6

傍線部③「コーチングの言語はとても複雑になる」とあるが、筆者はなぜそう考えているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、25。

(配点5点)

- ① 人間はそれぞれことばを認識する際の癖をもっており、同じアドバイスでも異なる捉え方をされる場合があるので、相手ごとに伝えたい内容を事細かに言わなければならないから。
- ② 人間の認知には限界があり、アドバイスをしても決して意図したとおりには伝わらないため、どの相手にもあらゆることばを尽くして説明を補足する必要があるから。
- ③ 競技者によって身につけている動きのレベルやことばの受け取り方に違いがあるので、同じ動きを引き出すとしても、相手によってコーチングのことばを変える必要があるから。
- ④ 動作一つをとっても、競技者によって理解のレベルが異なるため、競技者とコーチは適切なことばを使ってその理解を共有しておかなければならないから。
- ⑤ 競技者の体格の違いや競技のレベルに関係なくすべての競技者の同じ動きを引き出すためには、ことばによって理想の動きを的確に伝えなければならないから。

問7

傍線部(4)「高野進さんからいただいたアドバイス」とあるが、このときの高野さんの指導について説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、26。(配点5点)

- ① 高野さんはスランプ中の筆者に対し、トップ選手の足の動きと筆者の足の動きの違いをことばで説明し、筆者のスランプを解消した。
- ② 高野さんは「三角形」に対する筆者のイメージと実際の動きとの微妙な違いを見抜き、表現を変えながらその差を小さくした。
- ③ 高野さんは足の動かし方について筆者にアドバイスをしたあと、実際にその動きをやって見せて筆者に正確な動きを理解させた。
- ④ 高野さんは誰にでもわかる平易なことばを用いて筆者の足の動きの欠点を具体的に指摘し、筆者の動作の癖を見事に矯正した。
- ⑤ 高野さんはアドバイスを受ける前と受けたあとの筆者の動きの変化をことばで表現し、筆者に理想の足の動きをイメージさせた。

問8

傍線部(5)「自分で体験して理解することが大切です」とあるが、筆者はなぜそう考えているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、27。(配点5点)

- ① 身体の動きの改善はことばを聞いただけではその場限りの理解にとどまるが、実際に頭の中で経験してみることによって、実際の身体の動きを改善することができるから。
- ② コーチによるアドバイスは机上の空論に過ぎないため、スランプから脱却したければ、結局は自分で試行錯誤し、自分に合った動きを見つけていくしかないから。
- ③ コーチのことばを素直に受け取るだけでは正確な身体の動かし方は理解できず、自分のことばで言い換えてイメージを膨らませなければ、解決策を見出すことはできないから。
- ④ コーチングのことばを聞いて、どれだけ身体の動きをイメージしても実際の動きの改善にはつながらないため、実際に動いて自ら改善点を考えなければならぬから。
- ⑤ コーチングのことばに基づいて架空の身体で動作を想像し、さらに現実の身体でその動きを再現して身体的に理解できたと実感できたときにのみ、課題は克服できるから。

問9

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

28。

(配点5点)

- ① コーチングは選手の動きを映像で詳細に確認し、その結果に基づいて、正確な動作指導を行うことが重要である。
- ② 人間は、目の前に理想的な動きがあっても、それを見ただけで自然に身に付けて再現することはなかなか難しい。
- ③ 優れた選手は、自分自身で理想の動きをイメージしてそれをことばで表現し、スランプを克服することができる。
- ④ 選手がスランプに陥った際、コーチは繰り返し理想の動きを確認し、それを再現するように努力する必要がある。
- ⑤ コーチングのうまい人は、選手の特徴を直感的に判断することができ、達成できるレベルを設定して指導できる。